

令和6年度第1回みやぎ観光振興会議石巻圏域会議概要

【委員からの主な御意見】

(1) 本県の観光の現状、課題に関する認識、圏域ごとに考えられる要因

- ① 資料を見て、石巻圏域も頑張っているんだなと感じた。しかし、石巻圏域には、「何かが足りない」と感じている。大崎圏域における温泉や仙南地域におけるオルレのような、「石巻ならではの」観光地としてここを見に行くといったものがない。
- ② 大型客船入港の際にタクシーを用意しているが、あまり使われない。タクシー業界はコロナ前の80%くらいまでしか売り上げが戻っておらず、大変厳しい状況。観光客が増えているが、運送収入は増えていない。圏域内での消費額なども知りたい。
- ③ 令和4年度に比べて観光客数がだいぶ増加していて、上品の郷では令和5年1年間で来客者が100万人を超えた。震災前に比べればまだ少ないが、伸びてきているという印象だ。
- ④ 石巻圏域の宿泊数の増加については、東北電力の原子力発電所再稼働に関する工事関係者がここ数年、一日当たり1,000人から2,000人くらい宿泊していて、そのようなビジネスの方の宿泊が石巻圏域ではあったと思う。そこにコロナが5類に移行し、一般の旅行客が流入したことが大きなプラスになったと思う。さらに昨年はスポーツ系のイベントが石巻圏域内でかなり行われるようになったので、その関係で各学校の教育旅行やスポーツ旅行の両方の需要があったと思っている。
- ⑤ 石巻圏域に温泉や有名な施設などがないと言うが、「東日本大震災からの復興アジェンダ」は全国の中でもここだけものだと思う。今までの消費型ではなく、これまでになかったような体験型、新しく作っていくというマインドのプレイヤーが圏域内に増えている。これはもっと活かしていくべきだと思う。

(2) 本県の目指すべき姿や観光戦略プロジェクトについて

- ① 東松島市の道の駅のような画期的な観光地が旧石巻市に欲しい。
- ② 第6期プランの骨子案について、新規事業が多くて、希望が持てる、やってみたいという印象を受けた。松島から松島湾を回る航路を新規開設したが、周遊して野蒜駅など圏域内をに辿り着いて欲しいという思いがあり、「観光地再生に向けたにぎわいの創出（景観整備等のハード面の支援）」などの新規の支援に期待している。
- ③ 石巻市には色々見て回ることができる施設があるが、滞在時間が短い。施設間を繋げる何かがあれば石巻の宿泊観光につながるのではないかと。各施設で連携した施設間を繋ぐ導線が必要である。
- ④ 第6期プランの骨子案の現状課題に、「インバウンドに対してのプロモーション不足」があり、これについては他地域に比べて圧倒的にプロモーションの物量が少ないと思う。米沢の観光関係者と情報交換してきたが、地域全体で台湾に対するプロモーションをかなり行っており、その結果、毎週1つから2つのバスで台湾からのインバウンド客が来る状況になっている。石巻圏域でもターゲティングを明確にして、物量をもっと注ぎ込まないと他地域に勝てないと思うので、ここは力を入れていきたいところ。
- ⑤ 第6期プランの骨子案の現状課題の「体験型コンテンツ、ナイトタイムコンテンツ、周遊型コンテンツの不足」については、三陸地域では厳しい部分があるので、知見がある方がこの地域に来てアドバイスしてくれるとありがたい。
- ⑥ コンテンツツーリズムのメニューというものを1つでも多く作っていかねばならないので、そこについても力を借りていきたい。
- ⑦ みちのく潮風トレイルやオルレなどのネイチャー系のツーリストはテントなどを持ち込むため消費単価が伸びにくい。一方で荷物の持ち込みが大変だという観光客もいるので、そのような方々をターゲットに、荷物を集配するサービスなど新しい取組にトラ

イして消費単価を伸ばしていきたい。

- ⑧ DXについて、どのように観光業界の実業に落とし込めばいいか分かっている事業者は少ないと思う。DXを使って人手不足を解消するために何をすればよいのか、学ぶ機会が欲しい。AIの活用方法などについても導いていただければと思う。
- ⑨ 石巻圏域の令和6年度の大きな話題は、東松島市の道の駅の開業、サンファン館のリニューアルなどがある。復元されたサン・ファンバウティスタ号については批判もあるが、そういう施設すらない自治体も沢山あるので、それをどう活かすか観光戦略の中の一つの鍵になると考えている。
- ⑩ 石巻といえばマンガとアートも盛り上げていきたい。
- ⑪ 石巻には温泉もなく、海のものだけが目立って、その他これといった特徴がない。リピーターが増えれば観光客入込数も維持できると思うので、これが石巻という部分を見つけていく必要がある。
- ⑫ 観光客や宿泊客が増えた実感がない。現状を把握しつつ、バスやJR、お祭り関係者の方々の横のつながりや情報発信などが足りない印象を受けたので、課題を解決しながら前に進んでいく必要がある。
- ⑬ 宿泊観光客数について、令和元年度比が、仙台圏域ですら98%で他圏域は70%か80%という中で、石巻圏域だけ110%と突出している要因については分析する価値がある。要因の1つとしてスポーツの全国大会などの宿泊と事務局から説明があったが、もしそういったところが本当に伸びているならば、そこに投資をするなどのアクションが必要。
- ⑭ 環境省で国立公園満喫プロジェクトという動きがある。石巻にも三陸復興国立公園があり、みちのく潮風トレイルの整備も既に進んでいるところではあるが、国立公園であることを活かした誘客、あるいはそこからの周遊へ繋げていくことを新たな要素として

プランに加えても良いのではないか。

⑮ 6期プランの骨子案を示していただいたが、ここからさらに石巻圏域のプランとして解像度を上げていくことになると思うが、交通や宿泊、といった枠組みに目を向けるのではなく、1つ1つ石巻にあるコンテンツやリソースについて解像度を上げていくことが重要だと思う。具体的にはサンファン館のリニューアルや、アートなど、そういうテーマで皆で指さし確認していくことも大事だと思う。

⑯ 駅として「発信する場所」というところを意識している。石巻駅には色々なコンテンツがあるので、それと観光客がどのようにマッチングするかしっかり見ていきたい。例えば未だに野蒜駅では旧野蒜駅への行き方、石巻駅では南浜町への行き方を聞かれることがまだあるので、もう既に観光客は行ったことがあるだろうという考えではなく、初めて行く方もまだいるということ、またそれにプラスして観光客に、そこまでいくなら、ここも行けるよというような旅行パッケージがあるといいと思う。

(3) 数値目標の設定方針に関する意見

① 第5期プランに対してどんな結果が出たかという数字が欲しい。第5期プランから第6期プランに移っていくとして、何の反省を踏まえたのかが見えない。施策に対する効果を見極めて、検証と改善を行っていないと第6期プランの戦略が立てられないのでは。実利はどれで、この会議で皆が考えた結果による手柄だというエビデンスの数字が欲しい。

② 令和5年度は川開き祭りが第100回で、例年とは違って特別だったので、観光客入込数が増加しているのではないか。令和6年度以降は、これらがなくなるので、この数字を保つためにはどうすればよいのか。数値目標についてはこういう部分が課題になると思う。

- ③ 第6期プランの骨子案について細かく書いてあるので良いと思った。
- ④ 大型客船などの入港が減少傾向にある。なので今の石巻に寄港した際に観光の利便性が良いのかどうかなど、今までやってきたことの反省をフィードバックしながら骨子を作らないと、計画性だけが先にいって後ろから何もついてこないという計画になってしまうのではないかと思う。
- ⑤ 第6期プランの数値目標について、圏域ごとに宿泊施設の数などは違うと思うので、宿泊施設があるところとないところで、宿泊者数が合致しているのか考慮する必要がある。